

# 「こんなん してます。」

## わだいのこうじん

93

### 田舎のポルシェ

担当する農村・農業関連の最初の講義で、学生意識を探るために農村イメージをラフスケッチしてもらいます。すると学生らは山と田畑の風景に軽トラ(以下、軽トラ)を描きます。軽トラは若い学生の目からも農村の代表的要素のようです。

農山村に調査に出掛けると、住民の方が「送るよ」と言いつつ軽トラのドアを開けてくれます。そして山道や坂道を結構なスピードを出して飛びように運転します。走向能力と登坂能力に優れた軽トラは別名「田舎のポルシェ」。運転す

るおじさんも後期高齢者ながら「スポーツカーを駆るにいちばん」さながら軽快なテクニクです。

軽トラは仕事や買い物足の以外にも、災害時には避難所まで近所のおばあさんを一人ずつ乗せてピストン運転されるなど大活躍。軽トラあつての山村の暮らしなのです。和歌山県の軽自動車保有率対自家用車所有数は2009年に全国トップ、現在も上位に君臨し、うち軽貨物車保有は35.5%(2013年)。まさに軽自動車の雄ともいえる県です。

### 晩酌システム

先日、和歌山大学自然工

# 最強の軽トラ

ネルギー研究会を開催。低炭素型地域づくり、産業おこしを産学官民で研究しようとした研究会も7回目。会を重ねるごとに実践家の参加が増え熱気ある研究会になってきました。環境問題や地域問題に

中心に。講師の森さんは、林地残材を活用し地域で経済が回る手段として低投資、低リスクの薪ボイラーに注目。先進地である欧州調査に飛び込み、技術論経営論、地域経済と雇用の好循環の仕組みなど、具体的なノウハウを手に入れ、若いながら薪ボイラー普及のための起業までしました。

薪ボイラーとは、薪をたいてエネルギーを取る、昔は当たり前だった風呂たきの原理。木材の低迷→森林の放置→土砂災害の原因→雇用ができず若者は町へ

退、との負の連鎖は、解決への決定打もななく、もやしのよつな森林と空き家が増えるばかりの山村は近く消滅するとのデータも出されるほど。このままでは住民の方の無念の気持ちまでが風化していきつづです。自分の山の間伐材などを自分で切り、軽トラの荷台に積み集積所に運ぶと地元で使用できる地域通貨が支払われる「木の駅プロジェクト」が、森林管理と地元商店の活性化、収入にもつながるなど、地域自治の仕組みとして各地で広まりつつあります。和歌山県でも日高川町では、軽トラ一杯分で還元される地域通貨でお酒を買って明日の英気を養って、との「晩酌事業」を実施。持ち込まれた木材は、町内の温泉施設の燃料にも使用されています。家の近くに山があり、木材の搬入場所と軽トラの関係が近いからこそ可能なシステムです。

森さんの報告で、木の駅プロジェクトに取り組む地域で、木材を載せた数十台の軽トラが列をなす写真が示されました。それは壮観でした。森林資源の熱利用はうまくいったとしても日本の全使用エネルギーの数%にも満たないとの試算もあります。しかし論点は、そこではないのです。小さなエリアの森とお金と雇用とやる気の問題。見よ、この軽トラの列です。

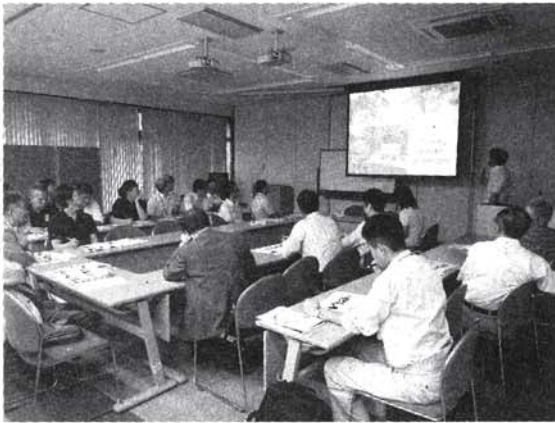
今回のテーマは「地域と森を元気にする仕組み」木質バイオマスエネルギーを

薪ボイラーとは、薪をたいてエネルギーを取る、昔は当たり前だった風呂たきの原理。木材の低迷→森林の放置→土砂災害の原因→雇用ができず若者は町へ

退、との負の連鎖は、解決への決定打もななく、もやしのよつな森林と空き家が増えるばかりの山村は近く消滅するとのデータも出されるほど。このままでは住民の方の無念の気持ちまでが風化していきつづです。自分の山の間伐材などを自分で切り、軽トラの荷台に積み集積所に運ぶと地元で使用できる地域通貨が支払われる「木の駅プロジェクト」が、森林管理と地元商店の活性化、収入にもつながるなど、地域自治の仕組みとして各地で広まりつつあります。和歌山県でも日高川町では、軽トラ一杯分で還元される地域通貨でお酒を買って明日の英気を養って、との「晩酌事業」を実施。持ち込まれた木材は、町内の温泉施設の燃料にも使用されています。家の近くに山があり、木材の搬入場所と軽トラの関係が近いからこそ可能なシステムです。

森さんの報告で、木の駅プロジェクトに取り組む地域で、木材を載せた数十台の軽トラが列をなす写真が示されました。それは壮観でした。森林資源の熱利用はうまくいったとしても日本の全使用エネルギーの数%にも満たないとの試算もあります。しかし論点は、そこではないのです。小さなエリアの森とお金と雇用とやる気の問題。見よ、この軽トラの列です。

自前のエネルギーを持つ事は災害への備えにも心強い。身の丈だけ自分らの責任で木を活用する意欲の象徴、軽トラの列を和歌山県でも見たいものです。山の男性たちは「自分に任せ」とばかりに張り切るに違いない。



自然エネルギー研究会



軽トラの列(鳥取県智頭町木の宿場実行委員会)

プロフィール



湯崎真梨子(ゆざき まりこ)  
和歌山大学産学連携・研究支援センター 教授  
専門は、農村社会学、地域再生学。自らが研究するだけでなく、地域と大学が共に成長するプロジェクト研究をコーディネートしている。